

# JRSF 将来構想

JRSF Vision for the Future

公益社団法人  
日本ライフル射撃協会  
Japan Rifle Shooting Sport Federation

発行日 2022年6月

発 行 公益社団法人日本ライフル射撃協会

[本書についてのお問い合わせ](#)

東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE  
TEL:03-6721-0792 FAX:03-6721-0793

# はじめに

日本ライフル射撃協会の使命は、「ライフル射撃スポーツを通して、国民の心身の健康に貢献すること」である。

将来構想プロジェクトは、この使命を果たすため協会がなすべきことを議論してきた。そして将来のあるべき姿を描き、中期の活動内容をまとめた。

我々は変化する社会に対応しながら、人々から愛されるスポーツ、支持される団体となるべく努力を続ける。

## CONTENTS

JRSF の使命	1
JRSF の 3 つの役割・JRSF の 6 つの活動	2
活動を共にするアスリート、会員、加盟団体との関係	4
活動① 選手の育成・支援	6
活動② ライフルスポーツの普及	7
活動③ 社会貢献	8
活動④ 経済的な自立	9
中期収支計画	10
活動⑤ 加盟団体との連携	12
活動⑥ 国際交流の促進	13

## JRSF の使命

日本ライフル射撃協会は、  
ライフル射撃界を統括し、代表する団体として、  
ライフル射撃スポーツの普及及び振興を図り、  
もって国民の心身の健康に寄与することを目的とする。





## 3つの役割

role

使命を果たすため、3つの役割があると考えています。

### アスリートの育成

ライフルスポーツを通して人間力のある若者を育成するとともに競技力の向上に努める。

### 競技の普及

アスリートの活躍やライフルスポーツの魅力を発信して競技の普及を図る。

### 社会貢献

ライフルスポーツを通して社会課題の解決に貢献する。

## 6つの活動

action

6つの活動を相互に連動させながら3つの役割を効果的に実行。

活動1

アスリートの育成・支援

活動2

ライフルスポーツの普及

活動3

社会貢献

活動4

経済的な自立

活動5

加盟団体との連携

活動6

国際交流の促進



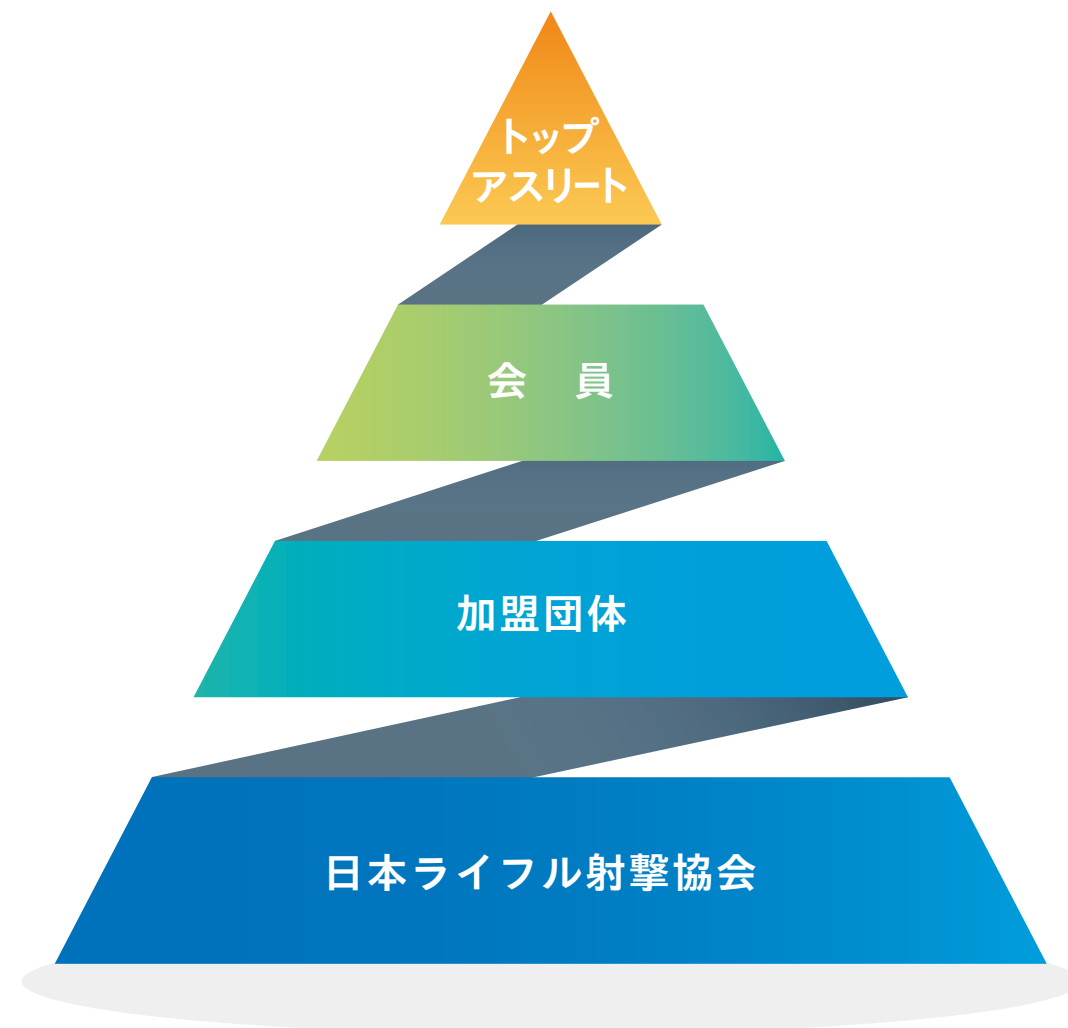


# 活動を共にするアスリート、 会員、加盟団体との関係

## Relationship

使命、3つの役割、6つの活動は、協会を構成する会員の皆様や加盟団体との連携、協力なくしてはできません。協会は皆さまの活動を支える組織と位置付け、協働してまいります。

### JRSF と加盟団体の関係図







## 活動1 アスリートの育成・支援

### 将来の有るべき姿

競技力・人間力の高いアスリートを育成し、オリンピック大会やパラリンピック大会でメダルを獲得する射撃強国となる。人々にとって魅力あるスポーツとして、トップアスリートはあこがれの存在になる。

アスリートが学べる教育プログラムを導入し、就職支援をはじめとするセカンドキャリアの支援体制を構築する。

### 2024 年度までの中期目標

- ① 2024 年パリ大会でのメダル獲得。ジュニア、シニア共に世界ランクトップ10 入りを果たす。
- ② シニア強化とジュニア発掘育成事業を連携させ、一貫した育成強化事業を実施する。
- ③ アスリートを育成してきた地元や所属先の指導者と連携した、オールジャパンの強化体制を構築する。
- ④ 日本人コーチの育成を図る。
- ⑤ JOC の就職支援制度の「アスナビ」や「キャリアアカデミー」をアスリートに周知し、活動を支援する。

## 活動2 ライフルスポーツの普及

### 将来の有るべき姿

銃を使う危険なスポーツという一般社会が抱いているネガティブなイメージを払拭して、国民が親しみをもち、そして老若男女が楽しめるスポーツになる。そのためには実弾と光線による射撃だけでなく、e スポーツやゲームなど間口を広げてライフルスポーツの裾野を拡大する。

### 2024 年度までの中期目標

- ① 共生スポーツであることを積極的に発信する。全日本 AR / AP、全日本 BR / BP は SH1 のパラアスリートも参加して、オリパラミックス種目を新設する。男女オリパラ総合順位を参考として公表する。
- ② ライフルスポーツに興味を持った人々が会員になり競技を始めるように、分かり易い説明のHPを作成すると同時に、事務局や加盟団体は丁寧な問い合わせ対応を心がける。
- ③ 協会主催の体験射撃会を定期的を開催する。2022 年度はジャパン・スポーツ・オリンピック・スクエアで6 回の開催を予定している。
- ④ 加盟団体主催の普及事業予算を拡大する。
- ⑤ 高校大学射撃部出身者がライフルスポーツを継続しやすい支援策を実施する。
- ⑥ 高齢の会員の方々が生涯スポーツとして続けられる環境整備をする。
- ⑦ 女性会員がライフルスポーツを継続しやすい支援策を実施する。





## 活動3 社会貢献

### 将来の有るべき姿

ライフスポーツを通して共生社会の実現や健康寿命の延伸に貢献する。協会主催大会の多くが、男女オリパラのアスリートと一緒に参加する大会運営とする。障がい者施設や高齢者施設を巡回し体験射撃を楽しんでもらう活動を全国で実施する。

### 2024 年度までの中期目標

- ① 全日本 AR / AP、全日本 BR / BP は SHI のパラアスリートも参加し、オリパラミックス種目を新設して、総合順位を参考として公表する。
- ② 下肢、上肢、視覚、聴覚、知的などあらゆる障がいをもつパラアスリートが参加できる競技会を開催する。
- ③ 障がい者施設を巡回し体験射撃を楽しんでもらう活動を実施する。
- ④ 高齢者施設を巡回し体験射撃を楽しんでもらう活動を実施する。
- ⑤ ライフスポーツの医学的効用を検証する研究を専門機関と共同で行う。
- ⑥ ASC、ISSF 主催のオリパラミックス競技を実現する。



## 活動4 経済的な自立

### 将来の有るべき姿

多くの人々や、企業、団体から存在意義を認められ、支援や協力を得られるスポーツになる。独自財源を確立して、経済的に自立する。

### 2024 年度までの中期目標

- ① 五か年収支計画に基づき協会経営を行う。(収支計画は次項)
- ② 五か年収支計画は以下の基準で作成。
  - 2020 東京大会招致決定年度である 2013 年度の収支バランスをベンチマークとする。
- ③ 減少する収入について
  - JOC 強化交付金の減少。
  - 電子標的公認料の減少。
  - 紙標的頒布金収入の減少。
- ④ 代替財源について
  - ニチラ応援新宿区ふるさと納税寄付制度の推進。
  - スポンサー獲得活動の推進。
- ⑤ 増加した経費の抑制
  - 事業費の増加を抑える。
  - 管理費の支出額は会費収入額を目安とする。
  - 事務局業務や委員会業務のデジタル化を推進し効率化を図る。
- ⑥ 事務局員の研修制度導入、専門的知見を有する経験者への業務委託など経費を増大させずに事務局能力のアップを図る。

# 中期収支計画

	東京大会招致決定 2013 年度決算		コロナ前年 2019 年度決算		コロナ 2021年度決算予想		2022年度予算案		2023年度予想		中期計画年度 2024年度予想		2025年度予想		2026年度予想		2022年予算から の年間変動率	ベンチマーク 2026年/2013年
1. 一般会計収入の部																		
会費入会金収入	40,129,000	43.5%	40,245,500	27.4%	37,666,500	39.9%	38,480,000	42.9%	40,404,000	44.9%	42,424,200	46.5%	44,545,410	47.7%	46,772,681	48.4%	5%	116.6%
事業収入	43,874,000	47.5%	40,131,109	27.4%	28,611,773	30.3%	24,269,900	27.0%	24,055,430	26.7%	24,083,659	26.4%	24,352,442	26.1%	24,862,062	25.7%		56.7%
紙標的頒布金収入	15,574,000		4,934,250		1,957,000		3,875,000		3,487,500		3,138,750		2,824,875		2,542,388		-10%	16.3%
認定料収入	12,425,000		27,278,119		19,075,773		9,332,300		8,399,070		7,559,163		6,803,247		6,122,922		-10%	49.3%
その他	15,875,000		7,918,740		7,579,000		11,062,600		12,168,860		13,385,746		14,724,321		16,196,753		10%	102.0%
J O C 交付金他	5,000,000	5.4%	51,086,965	34.8%	16,499,000	17.5%	15,500,000	17.3%	12,400,000	13.8%	9,920,000	10.9%	7,936,000	8.5%	6,348,800	6.6%	-20%	127.0%
Team Japan 配分金							1,000,000	1.1%	1,000,000	1.1%	1,000,000	1.1%	1,000,000	1.1%	1,000,000	1.0%	0%	
寄付金	0		3,400,000	2.3%	1,000,000	1.1%	1,000,000	1.1%	1,000,000	1.1%	1,000,000	1.1%	1,000,000	1.1%	1,000,000	1.0%	0%	
ふるさと納税寄付補助							840,000		1,260,000		1,890,000		2,835,000		4,252,500		50%	
スポンサー収入	2,454,000	2.7%	11,070,961	7.5%	10,340,000	11.0%	9,240,000	10.3%	10,626,000	11.8%	12,219,900	13.4%	14,052,885	15.0%	16,160,818	16.7%	15%	658.6%
雑収入	840,000	0.9%	703,623	0.5%	295,500	0.3%	295,500	0.3%	500,000	0.6%	500,000	0.5%	500,000	0.5%	500,000	0.5%	0%	59.5%
収入合計 ①	92,297,000	100%	146,638,158	100%	94,412,773	100%	89,785,400	100%	89,985,430	100%	91,147,759	100%	93,386,737	100%	96,644,360	100%		104.7%
2. 一般会計支出の部																		
事業費支出	34,238,000	48.3%	41,021,008	39.5%	23,034,302	28.5%	36,999,300	39.2%	35,889,321	39.1%	34,812,641	39.1%	33,768,262	39.2%	32,755,214	39.2%	-3%	95.7%
事務局関係費	34,093,000	48.1%	55,438,106	53.3%	49,056,424	60.7%	49,675,000	52.6%	47,765,200	52.0%	45,931,890	51.6%	44,190,246	51.3%	42,535,683	50.9%		124.8%
事務局人件費	25,068,000	35.4%	40,728,219	39.2%	34,410,500	42.6%	38,596,000	40.8%	36,666,200	39.9%	34,832,890	39.2%	33,091,246	38.4%	31,436,683	37.7%	-5%	125.4%
事務局経費	9,025,000	12.7%	14,709,887	14.2%	14,645,924	18.1%	11,079,000	11.7%	11,099,000	12.1%	11,099,000	12.5%	11,099,000	12.9%	11,099,000	13.3%	0%	123.0%
租税公課	590,000	0.8%	1,736,700	1.7%	3,360,000	4.2%	3,360,000	3.6%	3,000,000	3.3%	3,000,000	3.4%	3,000,000	3.5%	3,000,000	3.6%	0%	508.5%
その他経費	1,980,000	2.8%	5,752,842	5.5%	5,340,000	6.6%	4,470,000	4.7%	5,200,000	5.7%	5,200,000	5.8%	5,200,000	6.0%	5,200,000	6.2%	0%	262.6%
支出合計 ②	70,901,000	100.0%	103,948,656	100.0%	80,790,726	100.0%	94,504,300	100.0%	91,854,521	100.0%	88,944,531	100.0%	86,158,508	100.0%	83,490,897	100.0%		117.8%
収支 ① - ②	21,396,000		42,689,502		13,622,047		-4,718,900		-1,869,091		2,203,228		7,228,230		13,153,463			61.5%





## 活動5 加盟団体との連携

### 将来の有るべき姿

協会の使命は加盟団体との連携、協力なくしては達成できない。協会と加盟団体は一心同体の関係性にある。そのため信頼関係にもとづいた相互に支え合うことが重要である。協会はガバナンス、財政等の総合的な加盟団体支援体制を構築する。

### 2024 年度までの中期目標

- 1 スポーツ団体ガバナンスコードを参考に、定款、加盟団体規程、倫理規定をはじめとした諸規定の見直しと、加盟団体の規程整備を支援する。
- 2 加盟団体の法人化を支援する。
- 3 ふるさと納税寄付（新宿区補助金）の加盟団体への還付を実施する。
- 4 ジュニアアスリートの発掘育成事業を加盟団体と共に推進する。
- 5 地域における社会貢献活動を加盟団体と共に推進する。
  - 障がい者施設での体験射撃会の実施。
  - 高齢者施設での体験射撃会の実施。
- 6 デジタル化により加盟団体の事務負担の軽減化を図る。
- 7 デジタル化により会員サービスの向上を図る。

## 活動6 国際交流の促進

### 将来の有るべき姿

射撃競技が世界の人々に認められ、オリンピック、パラリンピック種目として永続できる活動を主導する。国際射撃界で貢献できる人材を育成し、IF、AFの役員や委員として活躍する。先進国NFとして発展途上国におけるライフルスポーツ普及を支援する。

### 2024 年度までの中期目標

- 1 ライフルスポーツの特性である共生スポーツを世界の人々に知ってもらうために国際競技大会にオリパラミックスイベントの導入を働き掛ける。
- 2 ライフルスポーツの医学的効用の研究成果を発信する。
- 3 ニチラスタイル（選手画像、照準軌跡、得点順位の画面を切り替えて映像化する）のオンライン国際大会を主催する。
- 4 OVS（Olympic Virtual Series）に参入するため、IFと連携してIOCに働き掛ける。
- 5 発展途上国への支援を外務省補助事業と連携して実施する。
- 6 JOC 国際人養成アカデミーへの適任者を派遣する。